

もくじ

▽ICEE2013 大会参加報告	1-2
▽研究奨励発表会① (九州)	2-3
▽研究奨励発表会② (関西)	3
▽研究満喫 (学位取得記)	3-4
▽from Editors	4

【大会参加報告】

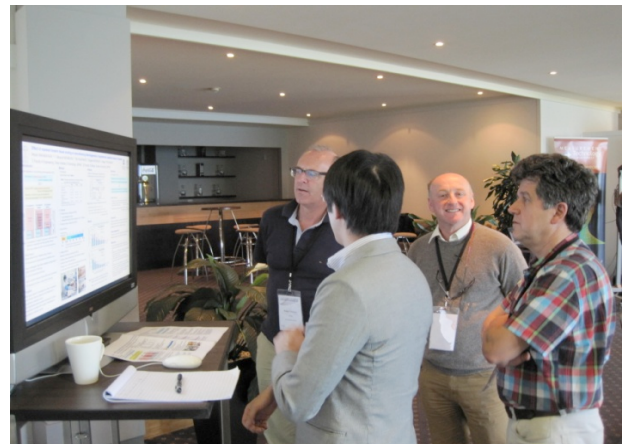
ICEE2013 (ニュージーランド) の参加報告

九州大学大学院芸術工学研究院学術研究員

西村貴孝

こんにちは、九州大学の西村です。今回、国際会議への参加報告という事で、2013年2月にニュージーランドで開催された、The XV International Conference on Environmental Ergonomics (国際環境人間工学会) について報告致します。会議の内容は、その名の通り環境人間工学や環境生理学の発表が多く、環境曝露系の研究に興味のある私には、大変勉強になる学会でした。しかしながら自身の研究発表をせずに参加したせいか、初日から大波乱の旅でした。旅発つ初日、意気揚々と14:00福岡発成田行きに乗り込み、定刻通り離陸したのですが、なんと30分ほど飛行したところで、「当機に不具合が見つかったので福岡に引き返します。安全には問題はありません。」というアナウンスが機長より流れました。問題がないのなら後30分くらいで成田に着くのではと思ったのですが、願いは届かず福岡に着陸。この時点でニュージーランド行の飛行機に乗れないことが確定しました。さて、どうなるのだろうと考えていましたら(発表がないので気楽なものです)、担当の方から連休中で空席がなく変更が厳しいとの説明を受けて、成す術もなく大学に戻りました。

九州大学に戻ると、ちょうど生理人類学会の研究奨励発表会をやっていたので、その懇親会に参加しました。そうすると先生方が旅だったはずの私(西村)がいると大騒ぎです。事情を説明すると、某安陪大治郎先生を中心とした先生方から、「日頃の行いが悪い」、「発表せずに行った天罰だ」、「どうせバッグには水着とサンダルしか入ってないだろ」などと、非常に暖かいご声援を頂きました。



発表する若林先生(左)とティプトン先生(イギリス、右から2人目)、メクジャビク先生(スロベニア、右)

私は反論できないので、懇親会をエンジョイしていると、先ほどの担当者から電話で、翌日の関空便に空きがありますので11時に来て下さいとのこと。奇跡です。翌日、二日酔いを手土産に日本を発ったのでした。その後、飛行機で一泊し、ついにニュージーランドの目的地、クイーン

ズタウンに到着。クイーンズタウンは雄大な地形ととても美しい湖のある素晴らしい街でした。そして、湖畔のホテルにチェックインし、部屋で荷物を整理していると電話が鳴りました。同室の後輩から「何か変な人から電話です！英語です！」と言われ、誰だか検討がついたのですが出てみると「Hello… unlucky boy…」とのことで、千葉工業大学の若林先生と合流し学会会場に繰り出しました。

今回の学会では発表は無かったのですが、若林先生のポスター発表のセカンドに入っていたので、写真係を兼ねて若林先生の隣に控えておりました。内容は骨格筋の局所寒冷順化で、私は寒冷曝露時の組織におけるミトコンドリアの動態について色々意見したり、実験を手伝ったりしたので共著に入れて頂いた次第です。若林先生は今回も英語でバリバリ議論していて、とてもかっこいいなあと思いました。やはり色々な意味で尊敬できる先輩です。発表の内容についてもかなり狙った研究なので評判は良かったです。



ホテルからの眺め

というわけで日程を消化していくのですが、クイーンズタウンはニュージーランドを代表する避暑地のせいか物価が高く、ビールが一杯 7～8NZD、ワインはもっと高価でした。ただ会場ホテルのバーはその日のサービス価格みたいなのがあり、4NZD くらいでしたので、もっぱらそこで飲んでいました。カンファレンスディナーは写真①に写っている船に乗って、対岸までクルーズし、そのレストランでディナーでした。とてもカントリーでゆったりとした時間でした。学会が終わった後は特に何事もなく無事に福岡まで戻り、その足で豚骨ラーメンを食べに行ったのは言うまでもないことです。

今回の旅の総括としては、やはり自分の発表があつてこそ海外学会も楽しく、発表無しの参加は 100 年早いということを身をもって知りました。若手の皆様、カナダは是非発表して参加しましょう。さもないと当たりますよ、天罰。

【研究奨励発表会報告①】

第 8 回研究奨励発表会（九州地区）開催報告 小崎智照（九州大学）

研究奨励発表会は、生理人類学の若手研究者同士の交流を深め、若手の研究の活性化を目的として活動しています。今回は 2013 年 2 月 9 日（土）に九州大学大橋キャンパスにて行われました「第 8 回研究奨励発表会」について、ご報告いたします（写真 1）。



写真 1. 研究奨励発表会（九州）の様子



写真 2. 優秀発表賞受賞者の江頭優佳さん（左・九大大学院）と福重春菜さん（右・京大大学院）

今大会は 13 演題の申し込みがあり、遠くは京都大学から発表をいただきました。全ての発表に対して参加者全員による投票を行い江頭優佳さん（九州大学大学院）と福重春菜さん（京都大学大学院）が優秀発表賞に選出されました（写真 2）。江頭優佳さん（九大）は「触覚刺激及びオノマトペ音声呈示による ERP 反応について」と

いう題目で、五感から得られる感覚が言語化したものである「オノマトペ」(＝擬音語・擬態語)の成立に関連が深いと考えられる触覚と聴覚に着目し、時間分解能に優れた ERP を用いてオノマトペの認知過程の特徴について発表されました。福重春菜さん(京大)は「日常生活における受光履歴とトリプトファンの食事摂取が睡眠におよぼす影響」という題目で、トリプトファン含有量の異なる食事と被験者への異なる光曝露量がその後の睡眠に与える影響について発表されました。本大会で特別講演として、井澤修平さん(独立行政法人労働安全衛生総合研究所)に「非侵襲的なバイオマーカーを用いたストレス研究」という題目で、唾液や爪等のサンプルによるバイオマーカーの採取や分析法に関する方法論からそのストレス評価に関する研究報告をいただきました。また、発表会後の懇親会では若手研究者の交流が深められ、非常に有意義な会であったと思います。

今後も研究奨励発表会を継続して開催したいと考えております。本発表会は学生を対象としたものですので、現在進行中で研究結果がまとまっていないものでも、参加者からの意見を聞くことができる貴重な機会となると思います。皆様からのご発表と多数のご参加をお待ちしております。

【研究奨励発表会報告②】

第9回研究奨励発表会(関西地区)報告

仲村匡司(京都大学)

2007年12月15日に芝浦工業大学で初めて開催された研究奨励発表会も6年目を迎え、第7回発表会が昨年12月8日に千葉大学で、第8回発表会が本年2月9日に九州大学で、それぞれ開催されました。そして、第9回目となる関西地区版が、大阪・梅田のど真ん中、神戸大学梅田インテリジェントラボラトリで本年2月16日に開催されました。実は、昨年度にも同様の発表会が企画されたのですが、諸般の事情によって流会となっていたいきさつがあり、まさに満を持しての大阪開催です。

今回は10件の発表がエントリーされていました。高齢者の主観的健康感、若年女性のストレス抵抗能、食事制限と月経随伴症状、石灰化した動脈の可視化と解析、生体コラーゲンの可視化、神

経細胞の活性測定、内装デザインに対する認知反応、光曝露とメラトニン分泌開始位相ずれ、自転車操作と身体バランス、虚弱高齢者の歩行、のように発表テーマは非常にバラエティに富んでおり、発表者も下は学部4年生、上は学位公聴会を控えた博士3年生のように、こちらも多彩でした。



研究奨励発表会(関西)の様子

発表者はそれぞれのスキルに応じて熱心にプレゼンテーションをこなし、真摯に質疑応答に臨んでいました。「未完成の研究でよい」と前置きされているにもかかわらず、そのまま本大会に持って行けそうな“本格派”の発表が多く、また、この発表会の企画から運営まで一手に引き受けられた中村晴信先生(神戸大学)のお人柄が反映されるのか、全体にほんわかとアットホームな雰囲気、フロアからは発表者をエンカレッジする建設的で前向きな質問やコメントが相次ぎました。

発表会後の懇親会はテーブルを教員と学生に分けて行われ、学生たちは今日の発表に関するディスカッションはもちろん、実験のノウハウや心構え、あるいは愚痴など、自分の研究室では普段知り得ない情報のやりとりに和気あいあいと勤しんでいました。一方、教員たちはといえば、時折自分のことが学生席の酒の肴になっている状況に怯えながらも、会の余韻を楽しんでおりました。次回もより多くの参加者を得て研究奨励発表会関西版が行われることを、心待ちにしております。

【研究満喫】

学位取得記

『オタマジャクシはカエルになれるか』

高橋隆宜(大阪市立大学大学院)

この度、博士の学位を頂戴することができた

ことをご報告させていただきます。

多くの博士課程修了者がいらっしゃる中、このような形でご挨拶をさせていただけることに心より感謝申し上げます。

さて、私は大阪市立大学大学院後期博士課程に入学してから5年の月日を経て、本年3月に学位を頂戴する運びとなりました。ここでは、学位取得までの苦悩について少しお話ししたいと思います。

大阪市立大学では学位を取得するために、一定以上の条件をこなす必要がありました。これは、特に無理を課すものではなく、学位を取得した後、研究者として独り立ちしようとするなら当然必要となる技量を備えるための条件であったと思っております。ただ、私には思いのほか難しく、この条件に達するまでに時間がかかってしまいました。この原因は、基礎能力の低さからくるものであったと察しております。なかでも最も必要である能力だと感じたのが語学力でした。いざ論文を書こうとしたとき、頭の中で思い描いたことを文章にすることに最も苦労いたしました。

もともと、基礎学力の低かった私が、博士の学位を取得することに無理があったのではないかと。このように考えたことは数多とありました。そんな弱音を吐く私に、周囲は常に温かい言葉をかけてくださりました。まだまだオタマジャクシに足が生えた程の私ですが、学位取得までの経験を生かし、今後も研究者として手足の生えたカエルになり、独り立ちできるように努力を重ねていきます。

最後に、これまでご支援を頂きました日本生理人類学会の諸先生にお礼を申し上げるとともに、今後も変わらず、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

【学会動静】

・大会予定

- | | |
|----------|---------------------------------------|
| 第 68 回大会 | [会期] 2013/ 6/8-9
[会場] 金沢大学(石川県) |
| 第 69 回大会 | [会期] 2013/10/26-27
[会場] 同志社大学(京都府) |
| 第 70 回大会 | [会期] 2014 年春
[会場] 九州大学(福岡県) |
| 第 71 回大会 | [会期] 2014 年秋 |

[会場] 神戸大学(兵庫県)

・2013-2014 年度学会役員

1. 会長：勝浦哲夫（千葉大）
2. 副会長：岩永光一（千葉大，総務担当），安河内朗（九大，英文誌担当）
3. 理事
 - 3-1. 総務：安納住子（芝浦工大），石橋圭太（千葉大）
 - 3-2. 広報戦略（含む教育）：草野洋介（国立長崎病院），工藤奨（九大），前田享史（北大）
 - 3-3. 企画：中村晴信（神戸大），樋口重和（九大），福島修一郎（阪大）
 - 3-4. 財務：岡田明（大阪市大），甲田勝康（近大）
 - 3-5. 和文誌：綿貫茂喜（九大）
 - 3-6. 会報：安陪大治郎（九産大），小崎智照（九大）
 - 3-7. 国際：恒次祐子（森林総研），原田一（東北工大）
 - 3-8. 研究助成：青柳潔（長崎大），井上芳光（大阪国大），古賀俊策（神戸芸工大）
 - 3-9. 研究部会：福岡義之（同大），横山真太郎（北翔大），若林斉（千葉工大）
 - 3-10. HP：小林宏光（石川県立看護大），仲村匡司（京大）
 - 3-11. 共同研究・PAデザイン：下村義弘（千葉大），村木里志（九大）
 - 3-12. 資格認定：山崎和彦（実践女大）
 - 3-13. 倫理：栃原裕（九大），宮野道雄（大阪市大）
4. 監事
西村貴孝（九大），前田亜紀子（群馬大）

from Editors

次号No.3の原稿締切は2013年8月1日です

▽二年間にわたって仲村と安陪の二名で PANews を編集担当させて頂きました。原稿を寄せて下さった先生方、大変ありがとうございました。この場をお借りしましてお礼申し上げます。次号からは、引き続き安陪に加えて、新理事の小崎（九州大）で編集担当をさせて頂くことになります。最初のトピックとして、JPA 誌のインパクトファクター値に関する情報を掲載する予定です。

▽PANews 編集事務局

安陪大治郎 九州産業大学 健康・スポーツ科学センター
仲村 匡司 京都大学大学院 農学研究科 (No.2 まで)
小崎 智照 九州大学 芸術工学研究院 (No.3 から)
メールアドレス panews@jspa.net

※お問い合わせなどは、上記のメールアドレス宛にお送りください。